

リビン・テクノロジーズ調べ 不動産の終活1割止まり 8割超 “争族化”の心配なし

不動産関連の比較査定
サイト「リビンマッチ」

を運営するリビン・テクノロジーズは11月15日の「予防争族（相続）を考える日」（アパート会計事務所小諸事務所制定）に合わせて不動産を所有する50歳以上を対象に「不動産の終活」について調べた。

175人から解答を得たところ、「終活」の認知度は83・4%と高く、「終活はいずれしなければならぬ」との認識も71・4%だった。所有不動産は生前に「売却」（33・7%）とのニーズ

も一定割合占めていた。相続を争族にしないのは86・9%となり、「そこまでの資産がないから」（50・7%）と「争う人がいない」（35・5%）の2つの理由で半数を占めた。ただ、50歳以上で「終活している」のは1割にとどまった。

所有不動産の種類でも多かったのは「自宅（戸建て）」（65・7%）となり、「土地」（27・4%）、「自宅（マンション）」（24・0%）、「農地」（7・4%）、

「区分マンション」（5・7%）、「山林」（5・1%）、「駐車場」（4・6%）、「1棟アパート」（4・0%）、「ビル」（1・1%）と続いた。

また、「法定相続する」（8・6%）、「生前贈与する」（4・6%）、「遺言書を書いた」（1・7%）、「共有名義を解消する」（0・6%）、「1億円を超える遺産あるので対策済み」（0・7%）という回答との解答もあった。